

# 滋賀県精神保健福祉協会だより

平成二十一年度滋賀県精神保健福祉協会調査研究部会事業 勉強会

## 「就労と結婚を語ろう！」に参加して



十一月十七日に、JR大津京駅近くのある地域生活支援センター「オアシスの郷」で、勉強会「就労と結婚を語ろう!!」は開かれました。このテーマでの勉強会は今年で二回目です。

オアシスの郷の玄関には大勢の人を迎えるためのスリッパがきれいに並べられ、参加者を歓迎していただいていることが伝わってきました。

六角形のきれいなホールにオアシスの郷の利用者や、他から来られた仲間の皆さんと関係者五〇人ほどが一堂に会しました。窓から射す日差しと、参加者の熱気で、ホールの中は暑いほどでした。

滋賀県立精神医療センターの辻院長の挨拶の後、座長の榎林先生から、「あまり普段は、恥ずかしくて聞けないようなこと、言えないようなことを語ろう」との趣旨説明があり、二名の方の体験発表が始まりました。一段高いところからの発表で発表者の方は緊張されているはずですが、堂々と発表なさっていることに感心しました。

就労についての体験発表では、無理をせず、自分のペースで仕事に取り組むことや、「自分ノート」を作って心の整理をしている、職場以外に相談のつてもらえるところをつくっておく、そのために常にアンテナを立てておくとのことでした。自分自身をみつめるとともに、周りの関係者をうまく利用することが、就労を続けるコツなのかなと思えました。

また、大津働き・暮らし応援センターの白杉所長は、一人の人間ががんばることは素敵だが、環境が変わって長続きして働いている人もいる。本人は変わらなくても周りの環境を変えることの必要性をお話しておられました。

結婚についての体験発表は、CD録音したお話を流す発表でしたが、きつと何度も練習してから録音をされたのでしよう、よくまとまった発表でした。グループワークでは、どうしたら結婚できるかということが参加者の一番の関心でした。経済的な面など条件が十分整ってからでなくてもいいのではないが、家事などはできる範囲でやればいいなど、あまり片意地をほらなくてもいいことを話し合いました。

勉強会の開催にあたって、「オアシスの郷」では結婚と就労についての事前ミーティングを実施され、掲示板に意見をまとめておられました。この勉強会

強会は、今日一日だけのことではなく、事前準備の段階から語り合いが始まっており、ひとつのことに向かって取り組む経験をする事や、日頃の活動の活性化にもつながることもわかりました。

オアシスの郷の職員の方々始め、その他のスタッフの皆さん、そして参加された仲間の皆さんご苦労さまでした。また、どこかでお目にかかれることを楽しみにしております。

熊越 祐子（彦根保健所）

### 「就労と結婚を語ろう!!」アンケート集計

- 【感想(抜粋)】
- 就労できている方が羨ましいと思った。
  - 現在、貯金が全くないので、一人暮らしを始める自己資金を貯める決意を強くした。
  - 仕事も結婚も努力すればどうにかなると思った。
  - 今後の生き方に大変参考になった。
  - 就労や結婚を問わず、無理しないことが大切と思った。どうしても根を詰めてしまうので、細く長く続けたい。通院しているが障害年金をもらっていないので、経済的に苦しい。主治医に勧められていないし、国にお金をもらうのは悪い。障害者手帳を持っていると偏見を持たれるのではと不安だ。
  - このような福祉施設を知らない方が多いので、病気を持っている方にもっと知ってもらいたい。
  - (発表者)発表の機会を頂き、ありがとうございました。とても疲れましたが、最後、皆さんに拍手をしてもらい、少し感極まる思いをしました。無事にできてよかったです。
- 参加者…45人  
 名簿記入者…29人  
 アンケート回収…18

# 「こころの健康講座2009」 今年のこころの健康講座は国際化しました

滋賀県立精神保健福祉センター 佐保田 圭吾

十一月三十日にはあたたかな午後、「こころの健康講座2009」を草津駅前にある「大阪ガスクッキングスクール滋賀」で開催しました。

「こころの健康講座」は、県民を対象に「食と健康」をキーワードとして毎年開催しており、今年は「ポーランドのクリスマスのお話とケーキ」と題して滋賀県立精神医療センター病院長の辻元宏先生と、有限会社ニッポ代表取締役のタデウシユ・アダム・オジユグさんを講師に迎えてポーランドの伝統的クリスマスケーキとクッキー作りの講習と「食と健康」にまつわるお話を講演していただきました。

はじめに、「ピエルニク」というたつぷりの蜂蜜に、グロップ、シナモン等のスパイスを加え、バターを使用せずサラダ油を使って焼き上げるケーキと、「ピエルニキ」という蜂蜜とスパ



講師  
タデウシユ・アダム・オジユグ氏

イスをたつぷり使用した、菓子職人の恋愛にまつわるお話が伝わるクッキー作りの講習会から始まりました。



オジユグさんは、柔らかな笑顔で各テーブルを指導しながら、参加者と談笑され、大変和やかな雰囲気での講習会は進んでいきました。

日本語に非常に堪能な方なのでお聞きしたところ、西田幾多郎の哲学を専攻し、文学博士号をお持ちで、現在同志社大学の嘱託講師もされているとのことでした。

ケーキとクッキーが焼き上がるのを待ちながら辻先生とオジユグさんのお話を伺いました。

辻先生は、アルコール摂取が及ぼす様々な病気、日本の栄養調査においてにおいて慢性的にカルシウム摂取量が不足していること、カルシウム不足が身体と精神に及ぼす病気、正しくカルシウムを摂取する方法などをユーモアを交えながら詳しくお話されました。特に幼児期、思春期と妊娠時のカルシウム摂取量の不足は、子供に様々な悪影響があり知的機能の発達と精神疾患に深く関わっているが、あまり知られていないこと。認知症の予防と改善にカルシウム摂取が有効であることなどは辻先生の研究と実践に基づくお話で含蓄の深いお話でした。次に、オジユグさんのお話は、ポー



講師  
辻 元 宏 氏

## 「こころの健康講座」アンケートより

【意見(抜粋)】

◎こころの健康と栄養について

- 栄養の採り方でいろいろな病気が予防できることがよく分かりました。
- カルシウム不足の怖さがよく分かりました。食生活を見直すよい機会になりました。
- 精神保健について、もっと詳しく聴きたかった。

◎ポーランドの民話とケーキ講習について

- ポーランドのクリスマスのお話はとても温かく素敵でした。
- 料理には自信がなかったけれど、その都度教えていただけたのでホッとした気分で作れました。
- しっとり、もちりしたおいしいケーキでした。とても簡単にできるので、家でもトライしてみます。

ランドと日本の生活を比較しながら、日本の伝統的な生活が心地よいこと、「ピエルニキ」がコペルニクスの故郷のお菓子であること、このクッキーの誕生と菓子職人の結婚にまつわる昔話、クッキーの形がハートとハートをリングで結んだ結婚と家庭生活の幸福を象徴的に表すものであることなど文化論として示唆に富んだものでした。

会場からは日本人の奥さんとの馴れ初めなどについて質問がありました。オジユグさんが照れて、曖昧に答えているところが、日本男子化してきているようで、日本に対する深い思いが見られました。

終わりにになりましたが、開催にご尽力をいただきました、「大阪ガスクッキングスクール滋賀」の皆様、誠にありがとうございました。

今後も、日本とポーランドの友好関係が一層発展すること願って報告を終わります。

# 連載「精神障害者が憩う街・ベルギーのゲールに関する10の話」をはじめるとあって

橋本 明 (愛知県立大学教育福祉学部教授)



とはいえ、ベルギーはあくまで「西ヨーロッパの田舎」なのです。私が以前住んでいたドイツ西部の街からベルギーまでは近かったので、よく国境を越えてベルギーに買い物に行きました。そこでいつも感じたのは、

小国にもかかわらずオランダ語地域とフランス語地域とにほぼ二分され、それらの地域のあいだで政治的・社会的な軋轢が絶えないこともご存じかもしれません。これには隣国のドイツやフランスといった大国に翻弄されてきた、ベルギー建国にまつわる複雑な歴史が深く関わっています。しかし、それゆえにこそ、異邦人にも開かれた国際的な雰囲気をもった国です。首都ブリュッセルにEU（ヨーロッパ連合）の本部が置かれていることも、それを象徴しているでしょう。

みなさんはベルギーと聞いて何を思い浮かべるでしょうか？ チョコレート、ビールでしょうか？ あるいは、

この国に足を踏み入れた途端、時間の流れが遅くなり、緊張が緩んでほっとした気分になることです。人々のはんびりとしていて、細部にはこだわらない、街並みは不統一で、列車も定期には来ない。良くも悪くも「いい加減」なのです。このような点が「西ヨーロッパの田舎」と評される理由なのでしょうが、ベルギーの魅力はまさにそこにあるのです。

ゲールは、「西ヨーロッパの田舎」であるベルギーの、そのなかでも典型的な田舎にあるごく普通の街です。教会前の広場周辺を除けば田園地帯が広がり、フランドル地方の風景らしく二本の運河が街を貫いています。ところが、ベルギーの田舎らしいゲールが、その一方で国際的に有名な街なのです。では、なぜゲールの名前が世界中に知られるようになったのでしょうか？ それに徐々に答えていくことが今回の連載の目的です。しかし、本格的に連載をはじめると同時に、ゲールを有名にしている「精神科家庭看護」についてごく簡単に

な説明をしておきたいと思えます。

「精神科家庭看護」とは、(通例は自分の家族以外の)里親家庭に預けられた精神障害者が、比較的長期間にわたって療養生活をしながら社会復帰を図るシステムを指しています。十九世紀以降のヨーロッパで、施設収容主義に限界を感じる精神医療の専門家たちから注目を浴びたのが、ゲールで何世紀も続いていた「精神科家庭看護」だったです。ヨーロッパ諸国の専門家

たちはゲールに倣った「精神科家庭看護」を自国でも実践しようとしてきました。一九〇〇年前後には、ゲールは日本でも評価されはじめました。いまでもゲールでは数百人の精神障害者が一般家庭に暮らしています。田舎の、しかし国際的なこの街の現在と未来に、今日でも世界が注目しているのです。

本日はこれくらいにして、詳細は以下にお示しした第一話から第一〇話までの連載でお話することになるでしょう。

## <連載予定>

- 第1話 聖ディンブナ伝説とゲール
- 第2話 増える巡礼患者とゲールの対応
- 第3話 ゲールで出会った人たち
- 第4話 近代的な医学とゲール
- 第5話 ゲールに寄せられる国際的な関心
- 第6話 日本人とゲール
- 第7話 ゲール訪問者を追い求める旅 (その1)
- 第8話 ゲール訪問者を追い求める旅 (その2)
- 第9話 第二次世界大戦後のゲール
- 第10話 未来に引き継がれるゲールの歴史と伝統

最後に、私は精神医療史を専攻している数少ない研究者の一人です。精神医療・保健・福祉の現場では、過去に目を向けることはあまりないでしょう。しかし、一定の距離を置いて現実を眺めるためには歴史的な視点は有効です。その意味で精神医療史も少しはお役に立てるのではないかと思います。

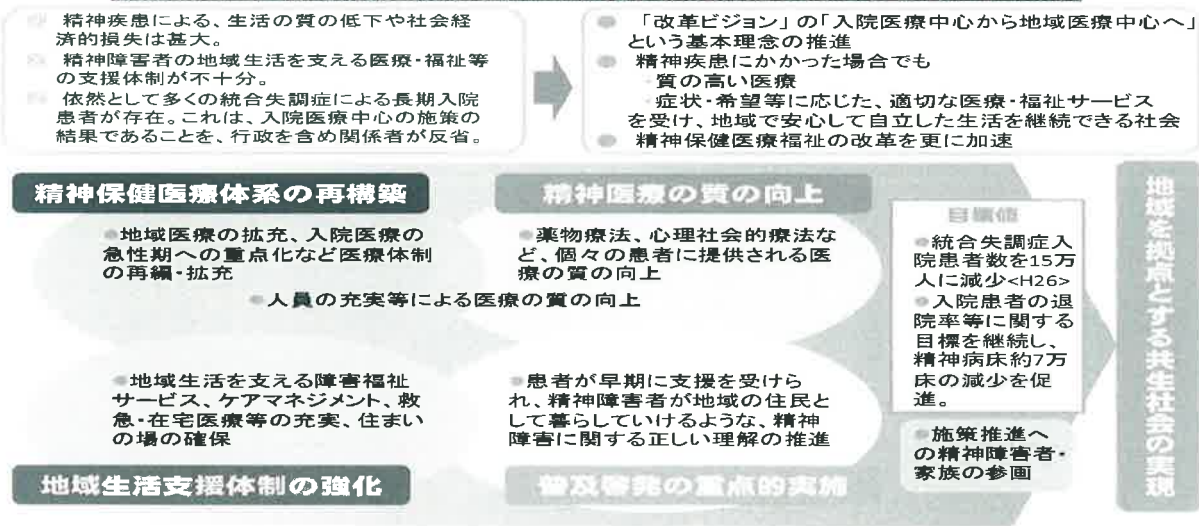
# 「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会」の報告書概要

「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会」が昨年4月から今年の9月まで一年半にわたって厚労省で開催されてきました。H16年9月に出された「精神保健医療福祉の改革ビジョン」の前期5年を総括し、後期5年を展望すべく検討を重ねた結果、H21年9月24日に「精神保健医療福祉の更なる改革に向けて」という報告書を発表しました。（<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/09/s0924-2.html>）精神保健医療体系の再構築、精神医療の質の向上、地域生活支援体制の強化、普及啓発の重点的実施の4本の柱を建て、それぞれにおいて基本的な考え方と改革の具体像を示しています。具体的な目標値として、統合失調症入院患者数をH26年には15万人に減少させ、精神病床約7万床の減少を促進することを掲げ、施策推進への精神障害者・家族の参画などを通して、「地域を拠点とする共生社会の実現」をめざすなどとしています。本文は長いものですので、その概要図から抜粋してお示します。

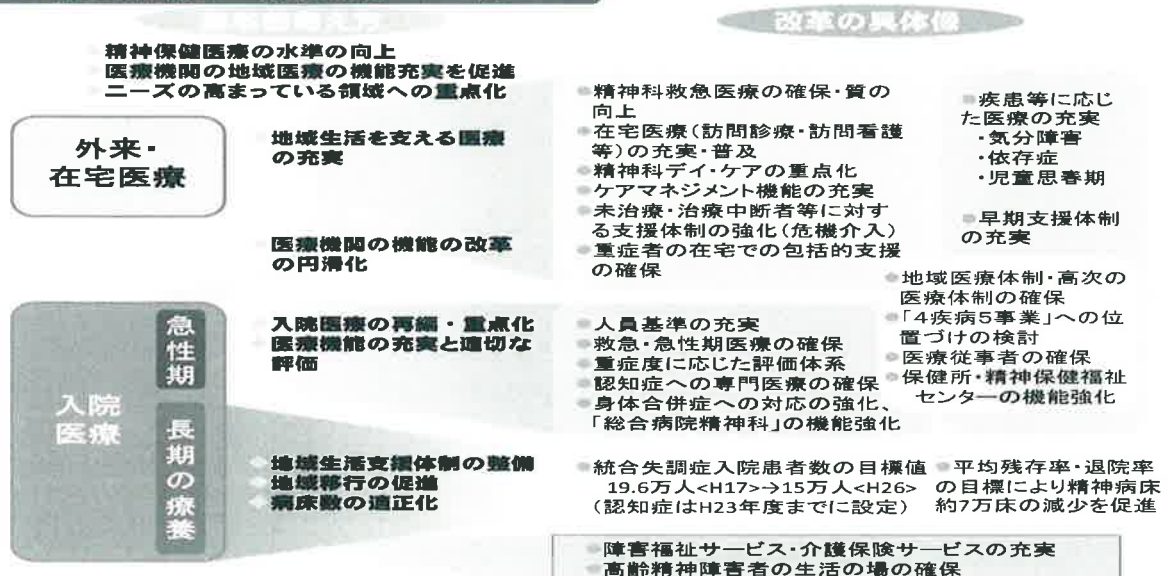
(編集部)

## 「精神保健医療福祉の更なる改革に向けて」概要

～「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会」報告書（座長：樋口輝彦 国立精神・神経センター）～  
**「精神保健医療福祉の改革ビジョン」(平成16年9月から概ね10年間)の中間点において、後期5か年の重点施策群の策定に向け、有識者による検討をとりまとめ【平成21年9月】**



## 1 精神保健医療体系の再構築



## 2 精神医療の質の向上

### 普及啓発

- 薬物療法等について、標準的な治療を促進
- 医療従事者の資質向上
- 病態解明、治療法開発等の研究の推進

### 改革の具体像

#### 1 精神保健医療体系の再構築 に 掲げた取り組み

- 入院医療における人員基準の充実、急性期医療への重点化
- 精神科救急医療の確保・質の向上
- 在宅医療(訪問診療・訪問看護等)の充実・普及
- 疾患・病状に応じた専門医療の確保(認知症、身体合併症、気分障害等)

等

#### 精神科における診療の質の向上

- 診療ガイドラインの作成・普及
- 患者等への分かりやすい情報提供
- 抗精神病薬の多剤・大量投与の改善
- 精神医療に関する臨床指標の開発・情報公開

#### 医療従事者の資質向上

- 精神科医の専門医制度の定着
- 精神療法・児童思春期精神医療を含めた医師の研修体制の確保
- 医師以外の医療従事者の生涯教育・研修の推進
- 心理職の一層の活用検討

#### 研究開発の推進

- 研究費の確保
- 病態解明、診断・治療法に関する研究の推進
- 臨床研究の積極的推進
- 施策の企画立案・検証等に関する研究の実施

## 3 地域生活支援体制の強化

### 普及啓発

- 相談支援・ケアマネジメントの充実強化
- 地域における支援体制づくり
- 居住系の福祉サービスの確保
- 精神障害者の地域生活を支える医療体制の充実

### 改革の具体像

#### 障害福祉サービス等

##### 相談支援・ケアマネジメントの充実

- 相談支援の充実
- 一退院時の支援、24時間の支援
- 自立支援協議会の活性化
- ケアマネジメント機能の充実
- 一対象者の拡大、支給決定前の計画作成、モニタリングの充実
- ケアマネジメントにおける医療・福祉の連携強化
- 重症者への重点的・包括的支援の実施
- 相談支援の質の向上
- 精神保健福祉士の資質向上

##### サービス等の充実

- 訪問による生活支援の充実
- ショートステイの充実
- 就労支援の強化
- 家族に対する支援の推進

##### 住まいの場の確保

- グループホーム・ケアホームの整備促進、サービスの質の向上
- 公営住宅への入居促進
- 公営住宅のグループホーム・ケアホームとしての活用促進
- 民間賃貸住宅への入居促進

##### 地域生活移行の支援

- 地域生活移行の個別支援
- 福祉サービスの入院中からの体験利用

##### 本人・家族の視点に立った支援の充実

- 政策検討への精神障害者の参画
- ピアサポートの推進
- 家族支援の推進

#### 医療サービス

- 精神科救急医療体制の確保
- 一精神科救急医療システムの機能強化
- 一精神・身体合併症を有する救急搬送患者の受け入れ体制の確保
- 一精神科救急医療を担う医療機関の機能の向上
- 精神保健指定医の確保
- 未治療者・治療中断者等に対する支援体制の強化
- 一訪問による多職種チームでの支援体制の構築
- 精神科訪問看護・訪問診療の充実
- 一訪問看護の普及促進
- 一重症者・多様なニーズへの訪問看護等による対応の強化
- 精神科デイ・ケア等の重点化

## 4 普及啓発(国民の理解の深化)の重点的実施

### これまでの取り組みと成果

- 精神保健医療福祉の改革ビジョンの目標(誰もがかけがいのことへの理解)には一定の進捗がみられる
- 一方、統合失調症に対する理解が大きく遅れている

国民一般への啓発から、ターゲットを明確化した普及啓発へ「だれに」「何を」「どのように」伝えるかを明確に

### 改革の具体像

- ピアサポートの推進等による精神障害者自身への啓発を推進
- 地域移行を着実に進めること等により、地域住民に対して精神障害者と触れ合う機会や精神障害者から学ぶ機会を充実
- 学齢期等の若年層とそれを取り巻く者を対象に、早期発見・早期対応による重症化防止を図るために、適切なメッセージと媒体による普及啓発を実施
- 医療関係者、報道関係者など対象に応じた普及啓発の基礎資料として、統合失調症をはじめとする精神疾患の正しい理解を促すためにインターネット等の情報源を整備し、治療法・支援策、研究成果等の情報発信を充実

- ◆ ターゲット毎に適切なメッセージ・方法で普及啓発を実施し効果を検証
- ※目標値については別途設定

#### 国民一般を対象とした啓発

画一的メッセージ

国民全員

#### ターゲットを明確化した啓発

個別のメッセージ

(例)

本人

適切な伝達方法

若者等

専門家



Working together for a healthier world™

より健康な世界の実現のために

日本で最も信頼され、最も価値あるヘルスケア企業になりたい。

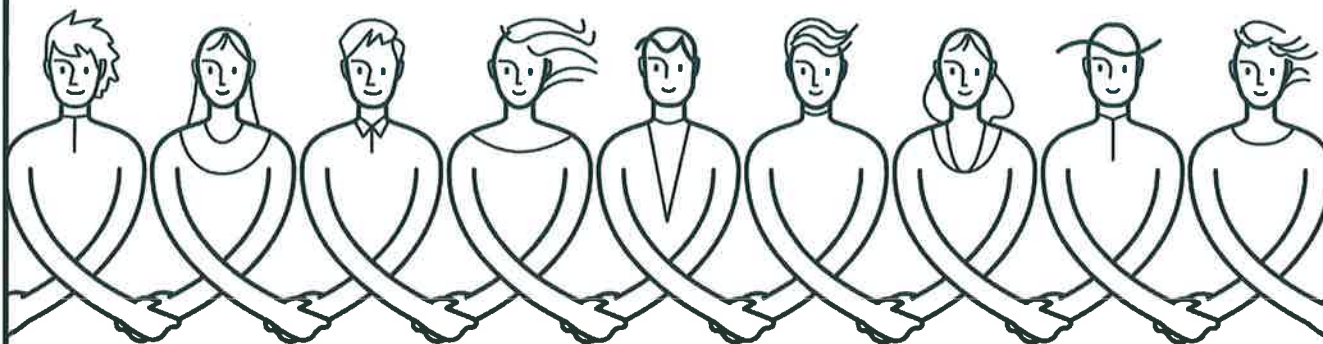
ファイザーは「新薬」に世界最大の研究開発費を投じています。<sup>※</sup>  
高血圧症、がん等、多くの病気、そして、治療薬に恵まれない病に打ち勝つためには「新しい薬」が必要だからです。

※世界企業のR&D投資額ランキング(2008年 欧州委員会まとめ)

ファイザー株式会社 [www.pfizer.co.jp](http://www.pfizer.co.jp)

Lilly

ひとりひとりの輝くあしたへ。



いっしょに、道を広げましょう。これまで、これからも。

イーライリリーは精神科医療の向上と、  
精神障害に対する「偏見」や「差別」を  
なくすための活動を支援してゆきます。

[www.schizophrenia.co.jp](http://www.schizophrenia.co.jp)

(統合失調症に関する一般の方向けサイト)

リリーの情報はインターネットでご覧になれます。<http://www.lilly.co.jp>

日本イーライリリー株式会社  
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7-1-5



## これまでも、これからも、 「患者思考」

患者さんのことを、自分のことのように考えると、  
見えてくるものがあります。いまだ満たされて  
いない患者さんのニーズに応えるために何が  
できるか。何を優先すべきか。

私たちヤンセンファーマは、その最善の答えを  
導いていくため、これからも挑戦を続けていきます。

ヤンセンファーマは、CNS（中枢神経系）、真菌症、鎮痛・麻酔、がん領域の  
リーディングカンパニーを目指す、「ジョンソン・エンド・ジョンソン」グループの製薬会社です。



**ヤンセンファーマ株式会社**

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-5-2 <http://www.janssen.co.jp>

一緒に歩こう、笑顔へ続く道。

# All for your smile

統合失調症の患者さん、  
ご家族、そして支援する  
みなさまの笑顔のために。  
大塚製薬は、これからも  
精神医療に貢献していきます。



統合失調症情報局  
「すまいるナビゲーター」は、患者さんやご家族を  
対象に、統合失調症の病気や治療、  
社会参加のために役立つ制度の  
ことなど、知っている役立つ  
情報を発信するサイトです。

すまいるナビゲーター

検索

All for your  
smile



Otsuka 大塚製薬株式会社

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

# 伝言板

## 初笑い／落語家さんと遊ぶ Part8

日 時…平成22年1月23日(土) 午後3時～5時  
 場 所…地域生活支援センターまな  
 (JR琵琶湖線南彦根駅西口 徒歩5分)  
 内 容…第1部 落語 笑福亭生喬さん・笑福亭生寿さん  
 第2部 大喜利などパフォーマンス  
 入場料…300円(夢工房ifによる喫茶あります)  
 主 催…日本笑い学会・笑ってメンタルヘルス滋賀支部  
 連絡先…地域生活支援センターまな (TEL:0749-21-2192)

## こころの会 例会

日 時…平成22年2月14日(日) 13:00～15:00  
 場 所…県立男女共同参画センター研修室B  
 (JR近江八幡駅南口 徒歩10分)  
 内 容…現在悩んでいること、薬のこと、病気のこと、等  
 申込み…「こころの会」蒲生郡日野町木津192(事務局代表 吉澤康雄)  
 TEL/FAX 0748-52-2918 (この会は患者会です)

## 平成22年度 日本精神科看護技術協会 滋賀県支部 「家族教室初級研修」

“家族が元気になる家族教室”を運営するためのスキルを体験・学習  
 日 時…2月25日(木) 10:00～18:00(9:30受付開始)  
 場 所…ピアザ淡海(大津市)会議室  
 講 師…土屋徹先生(SST認定講師)  
 募集人員…50名(看護師以外の職種の方も参加できます)  
 受講費…(当日受付にて徴収)  
 1) 日精看滋賀県支部会員 5000円  
 2) 日精看他支部会員 7000円  
 3) 非会員・他職種 7000円  
 申し込み・お問い合わせ先…  
 日本精神科看護技術協会 滋賀県支部  
 教育事業SST研修担当(清水・三津村・倉橋)  
 滋賀里病院 TEL(077)522-5426 FAX(077)522-8291

## 滋賀県精神障害者家族会連合会「鳩の会」主催 2009年度日本財団助成事業 「滋賀県精神障がい者家族相談リーダー養成研修会」

精神障がい者家族相談のリーダーとなる人材の養成は、精神障がい者が地域で生活するために、重要な役割を担います。  
 そこで、県民および関係機関の職員等を対象に「滋賀県精神障がい者家族相談リーダー養成研修会」を開催し、精神障がい者の社会参加を促進します。  
 日 時…平成22年2月9日(火) 10:00～16:30(受付9:30～)  
 場 所…フェリ工商草津5階大会議室 (JR南草津駅より、徒歩約4分)  
 対 象…県民、保健医療福祉等関係者 約50人程度 [参加無料]  
 内 容…【第一部】 10:10～12:00  
 講演「精神疾患を理解する」  
 講師:滋賀県立精神医療センター病院長 辻 元宏 氏  
 【第二部】 13:00～14:30  
 講演「相談活動の実際」  
 講師:佛光大学社会福祉学科准教授 篠原 由利子 氏  
 【第三部】 14:45～16:30  
 グループワーク(グループに分かれてのロールプレー)  
 後 援…滋賀県精神保健福祉協会  
 問合せ・申し込み先…鳩の会事務局  
 電話:0748-31-0202 FAX:0748-31-0203

## ピアサポート・ピアカウンセリング 公開講座

日 時…平成22年2月27日(土) 13時30分～16時  
 場 所…地域生活支援センター・オアシスの郷  
 講 師…NPO法人サタデーピア  
 定 員…30名 参加費…無 料  
 申込み…地域生活支援センター・オアシスの郷(TEL 077-510-5725)  
 [申込締切 平成22年2月20日(土)]  
 主 催…地域生活支援センター・オアシスの郷(TEL 077-510-5725)



## 編集後記

◆ 石川遼選手が18才でプロゴルフ史上最年少賞金王になりました。2007年にハニカミ王子として衝撃のデビューを飾ってから、着実に実力をつけて、とうとう日本人プロゴルファーのトップに立ってしまいました。全くもって信じられないことでした。何かと暗い話題が多かった2009年。私たちの社会の中にはこのような奇跡的人材を生み出す潜在力があることを教えられ、勇気付けられました。来年早々にはバンクーバー冬季オリンピックが開催されます。また夏にはサッカーワールドカップがあります。ワールドカップのベスト4というのはとても難しいかと思いますが、ここでも若い才能が輝けば私たちに夢を届けてくれるかも知れません。  
 ◆ そんなことよりも、毎日の生活を何とかしてくれという声が聞こえてきそうです。11月の総務省発表では完全失業者数は331万人で前年同月に比べて75万人増加、デフレの影響が大きく、厳しい雇用状況が続いています。滋賀県では有効求人倍率は6月の時点で過去最低の0.34でした。8月には「コンクリートから人へ」を掲げた新政権が誕生し、何かが変わるとかも知れないという期待が高い支持率となって表れていました。しかし、新政権発足後100日を経過した現在、ハネムーン期を過ぎて、その実行力に対して疑問を呈する声が大きくなりつつあります。  
 ◆ 民主党マニフェストでは「医療崩壊を食い止め、国民に質の高い医療サービスを提供する」とあり、その具体策として自公政権が続けてきた社会保障費2200億円削減方針を撤回することや、OECD平均の人口当たり医師数を目指し、医師養成数を1.5倍にすることなどが書き込まれています。その結果H22年度診療報酬改定案では、本体1.55%の微増で決着したようです。10年ぶりにプラス改定になったことは評価されるべきかも知れませんが、これでは羊頭肉のせしりは免れません。OECD加盟30カ国の中で、対GNP比の医療費は21位、人口あたり医師数は27位という低コストの医療提供システムは変わりようもありません。  
 ◆ 「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会」の報告書「精神保健医療福祉の更なる改革に向けて」が9月24日に発表されました。厚労省ホームページから<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/09/s0924-2.html>をご参照下さい。新政権において具体的にどのように実行されていくのが注意深く見守っていく必要があります。  
 (滋賀県精神神経診療所協会 上ノ山)

## 会員数

平成21年12月15日現在

一般会員	個人会員	156名
	団体会員	36団体
賛助会員	個人会員	9名
	団体会員	11団体